

## ■今月の特選句

2015年7月

**ドンファンの気分に筍一氣剥ぐ**

壽命秀次

筍の皮を剥ぎとる時に、女性の衣服を無理に脱がせる気分になる。女性の立場で詠むならば、「筍の気分ドンファンに皮剥がれ」。

**初メロンかも知れぬこの不在票**

伊藤洋二

持つべきものは良き友達。実際は初メロンではなかったとしても、不在票で推測を楽しめる。「宮崎のマンゴーだろか不在票」。

**パンプスのトンネル潜り蟻の列**

上山美穂

優しい心が一句を生んだ。まさか、蟻が通過し終えるまで立ち尽くして居たんじゃないだろうね。「蟻の庭歩けなくなるハイヒール」。

**十万人出に耐えてチューリップ**

山本 賜

チューリップを擬人化しましたね。「人出喜ぶ」としては「詩」が無くなる。花もチューリップだからいい。「十万人出に平然薔薇の花」。

**平手打ち蚊の自宅侵入罪**

柳 紅生

俳句は瞬間を詠むということの見本のような句ですね。即刻処刑とは北朝鮮みたいですが。「蚊の侵入許したためにデング熱」だからね。

**言ひ訳のできぬ物出る土用干**

田村米生

過激なグラビアでしょうか。この風景の続きを詠みたいですね。「グラビアに作業中 断土用干」「グラビアをそそくさ隠す土用干」。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

買った値が捨てさせないの更衣 ・・・年々下げよその評価額	青木輝子
臍曲げし女は胡瓜揉みほぐす ・・・次にトントン当たる俎板	久我正明
唸り来る律儀と言へば律儀の蚊 ・・・羽音立てねば討たれぬものを	加藤 賢
業平忌女難の相に縁遠く ・・・真面目一途の人生となる	有吉堅二
ナイター中継いつも佳境で終る謎 ・・・あとはネットで結果を知るか	金澤 健
偏見に耐えて完熟蛇莓 ・・・蛇の名前を改名すべし	笠 政人
名前負けしているような薔薇の花 ・・・人にも同じことがときどき	津田このみ
青時雨鯉に貧富の差のありぬ ・・・餌は同じものをやるのに	赤瀬川至安
朝顔の好きな方から絡みつく ・・・支柱にもある美醜てふもの	井口夏子
ドレスとは無用の端切れ夏来る ・・・端切れつけて海へジャボジャボ	池田亮二

**逃げる子を追ひかけてゐる天瓜粉**  
・・・逃げた思い出今は懐かし

氏家頼一

**ごきぶりの奥の手出して宙を飛ぶ**  
・・・一芸のなく人は句を詠む

白井道義

**鳳仙花売られた喧嘩を買うはめに**  
・・・喧嘩を買うに時と場合が

麻生やよひ

## ■今月の滑稽句

【佳作】	老懶の明日への変身更衣 ペランダに締め出し喰らう愛煙家	青木輝子 青木輝子
【佳作】	鋸で凍みマグロをば短冊に 清濁をかたみに使ふ行々子 天空を錆雲で埋め季は梅雨に	青山桂一 青山桂一 青山桂一
【佳作】	典座まづ五月蠅き蠅を払ひたり 麦秋や最眞力士の上手投げ	赤瀬川至安 赤瀬川至安
【佳作】	眼薬よりみどりのトンネル眼を癒す おつさんも可愛い仕種クールビズ 単衣着て老若芸妓の足乱れ	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	ひきがえるご意見無用の面構え 紫陽花や人知れず持つ二心	麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】	衣更へてまた忘れてるパスワード 噴火口開けっ放して梅雨となる レシピ本埃をかぶり胡瓜もみ	有富洋二 有富洋二 有富洋二
【佳作】	如何ともしがたき誘ひピヤホール 竹婦人われ木石の身にあらず	有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	フルグラやアイスマルクのガレキかな へイチゴでんでんむしの赤提灯 水着行く飛行機雲の急降下	栗倉健二 栗倉健二 栗倉健二
【佳作】	稚児泣きて婆が乳やる戻り梅雨 子燕は顔より大き口を開け 農継がぬ倅ばかりや麦焦がし	飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	どくだみの名折れや毒と十字架は 夢落ち火取虫に狙はるる	井口夏子 井口夏子
【佳作】	神も人もよろめく神輿長寿国	池田亮二
【佳作】	庭の石四肢踏んばりて蛇の立つ 爺むさき服の山あり更衣 夏立つ日家糖尿と妻の云ひ	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	伊勢松とお名をつけましょ燕の子 婚活や当たり年なる花かぼちゃ	伊藤洋二 伊藤洋二
【佳作】	蟬鳴いて女人の声は聴かぬもの 白牡丹遠くに明かり灯りけり 叩かれることが宿命干蒲団	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	紫陽花やことわりもなく赤になり 燕の子大口開くもエサの無し 備えなく蚊の一刺しに打ちそこね	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	サツキ晴れ花のピンクと取り合はせ 飛ぶ夢を見るやろくろ首の白鳥は	上山美穂 上山美穂
【佳作】	腰巻のちらりと見えてあつばつば 桑の実を喰って見合す顔と口	氏家頼一 氏家頼一

【佳作】	ひとふりの太刀魚をさげ娘婿 LEDにたちうちせむとして蛍 咲くことをせかされ月下美人かな	梅岡菊子 梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	毛虫焼くこれ以上なき厚化粧 三尺寝あゝ世この世を往き来して 指銃で女を殺める凌霄花	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	お小言やビール泡の消へてをり 老鶯の真似し損ねし鸚鵡かな	大澤酒仙奴 大澤酒仙奴
【佳作】	緑陰に噂話の弾みけり 恋実る風鈴はしやぐ窓辺かな 猛暑日や酒も飲まぬに千鳥足	岡野 満 岡野 満 岡野 満
【佳作】	夜の雷来るなら昼間堂々と 冷奴何の変化も無い一日 二階まで来たのに感謝されない蟻	小川鮎太 小川鮎太 小川鮎太
【佳作】	囀鮎知るか知らずや生き生きと 線路際「ハイソ」の日除け風に揺れ 行行子制止の効かぬ相(さが)なるや	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	昔はと一席ぶつ子祭髪 譲られし席へ素直になれぬ墓 デパートの香水に俺追はれけり	加川すすむ 加川すすむ 加川すすむ
【佳作】	省みて優柔不断なめくぢり デジタルの介護ロボット無表情	笠 政人 笠 政人
【佳作】	微笑むや水田に映るお地藏は おもてなし新茶の香競ひ合ひ 梅雨寒や卵一つをカチと割る	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	シャンデリア蠅が一匹止まりみて スナックに元マドンナの来て薄暑	加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	庭躑躅丸く刈られて萬翠荘 読書良しうたた寝もよし風薫る 立夏なり萌黄に染まる城の山	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	海荒れて海月のしめす気骨かな 青春や家出も出来ぬかたつむり	金澤 健 金澤 健
【佳作】	今日の日をひねもす鳴けり四十雀 税務署のビル軒より燕の子 万緑の中の竹林かれそむる	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	冷房の外機に集ふ愛煙家 院長はパソコン上手ところてん 誤魔化しの効かぬ齢のパナマ帽	菅野あたる 菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	意地張り女の肘や冷奴 ひそひそと竹皮を脱ぐ茶屋の裏	久我正明 久我正明
【佳作】	ドラキュラに十葉の花突きつける 空梅雨の空をカラカラ風車 天の星盗んで来たる京鹿子	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子

【佳作】	梅雨晴れ間五臓六腑が干されをる ストローは二本注文ソーダ水 電柱のカラスに五月の風甘く	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	早乙女と呼んでいかと躊躇せり 仁義なき戦ひ子燕の晚餐 借景にサービスとして小滝つけ	小林英昭 小林英昭 小林英昭
【佳作】	人間は考える葦ゆればげし 鳥獣に劣る人間巢立ちあり 人間も負けるが勝ちと道をしへ	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	雨降りに割引してるアイスクリーム 追いかけてっ畑の周りぐるぐるよ ホールインワンでもぐらもびっくり穴埋める	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	人当たりやはらかになる水中り 夏瘦や食はず嫌ひを無理に食べ 空席をお尻でつくる薄暑かな	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	雨おとこ果して悲惨筍掘り 手招かる筍飯の毒味役	壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	母の日の母は男の泣き所 三食を欠かさず取りて昼寝かな	白井道義 白井道義
【佳作】	甘いもの食べて意欲の固まり見た 気むづかしいキュウリは夜漬ける 何度も角曲って墓へまつしぐら	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	豆飯や犬の訓練餌で釣り 新茶より先に売れてる国訛り 浦祭母ちゃん巫女になりにけり	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	万緑や吾子にも白髪が生え初むる 揚雲雀疲れはてても日の暮れぬ 独身は不参加女子大同窓会	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	老人の立禅をする立夏かな 足心呼吸の励むは五月かな ひなげしやおいらくのこひをしたるの	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	平和呆け人の数多よ夏薊 梶振れば雨となりたり青梅は 梅の青ぶつちやけてをり桶の中	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	告白は甘藷焼酎を飲んでから 答入れる団子レースの水馬	田村米生 田村米生
【佳作】	今年また同じ道行く蟻の列 梅雨入りの宣言あれど雲もなし	津田このみ 津田このみ
【佳作】	紫陽花の玉転がりて雨上がり 蕃茄食ぶ声を立て立てストレッチ どこまでも前進あるのみ蝸牛	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	父の日や介護の間(ひま)のコップ酒 震度二やお代りをする豆の飯 父の日や捨て切れぬ本括る父	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝

【佳作】	梅雨晴れ間てるてる坊主胸をはり 万歩計机の上で梅雨籠り	中井 勇 中井 勇
【佳作】	今時の幼稚園児も日焼け止め	中井 勇
【佳作】	輿入れをしてはや三月竹婦人 甚平の鯉押しに押す横車 夏燕信号無視の虫追つて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】	目こぼしをされ若竹となりにけり 富士山を裸で仰ぐ湯屋の昼 水着干されてあとかたもなき女体	新島里子 新島里子 新島里子
【佳作】	鱧棲める海の豊かな日本はも 鱧釣りの喜ぶ笑顔見んと期す 関鯖を捌く板場の青臭し	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	白鷺や万葉と今の湯を繋ぐ 実物より家紋で名高き桐の花 糞害に怒れずかわい燕の子	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	学友の誰も禿頭冷奴 はからずも赤子の相手天花粉 笑はせてくるる子子笑はせる	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	草引くや家族の未来有りや無し ことばにも三角四角卵浪立つ 難聴を文で補ふ生身魂	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	世の中を逆しまに見て蚊喰鳥 マラリヤ蚊しぶとく変身デング蚊 ゴキブリ捕り足枷にされ猫帰る	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	六月の綺麗な風はまだ吹かず 雨蛙今日は鳴かぬがどうしたか 梅雨じめり苔の暮しに共感す	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	生温き一陣の風走り梅雨 指揮棒に汗をあづける肥満体 笛や妹の背伸びる四姉妹	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	あちこちに執念深く草茂る 夏来たるピンポンダッシュ得意な子 今日夏日夏日漱石読書中	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	母さんの瞳の中にぼくこいのぼり 山峡の車窓次々竹の秋 寝不足の頬を一撃青嵐	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	箱根山五月の空に怒り吐く 五月富士箱根見下ろし溜息す 舌鼓茄子味噌炒め妻の味	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】	緑蔭にひそみ白バイ鼠捕り 覗き見の出来る高さに朴の花 I・Sに踏まれていないかけしの花	細川寛子 細川寛子 細川寛子
【佳作】	クリンソウ女人高野の鎮もりに 長谷寺や山ほととぎす銜して 草原のつばめも子猫も春の季語	松井寿子 松井寿子 松井寿子

	浴衣の婆ポーズいくたび自撮り棒 皆使ふ銭湯湯上り渋団扇	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	幼児の巨大な足に追はれて蟻の列	
	菖蒲のせフランスパンのせ長話 感嘆符たくさんつけて夏が来た 蟻耳に入り音響は蟬のごと	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	海の日や青磁白磁の器たち 石段に吾が影を折る原爆忌 菖蒲湯の嬰はこぶしの力抜く	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	父の日や老いを理由とせぬ気骨 しみじみとややこしき文字水羊羹 蛇苺背伸びしたがる子の遊び	百千草 百千草 百千草
【佳作】	紫陽花の足を止めさす名演技 庭箒跨がり目指す入道雲 飛行機や真夏の空を削り行く	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	風によろけし噴水の飛沫かな 虐殺も俳句の季語ぞ毛虫焼く ネクタイは無用の長物更衣	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	薔薇多(さは)に咲かせ流し目未亡人 妻呼びて猫の応ふる端居かな 短夜の基敵やつと腰を上げ	谷澤紀男 谷澤紀男 谷澤紀男
【佳作】	地獄谷極楽坂や登山地図 霊峰に一礼したり山滴る 称名の滝の落下や落差大	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	センターを妻に任せて帰省せり 百歳を生き抜く手相水喧嘩	柳 紅生 柳 紅生
【佳作】	ハッピーになれた梅雨入り幼女の手 孫来たる盡きぬ話や夏の昼 梅雨入りと云はれ太陽燦々と	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	天界へお先どうぞと蝶の恋 新緑に肺の染めたき深呼吸 走り梅雨そのまま過ぎてくれまいか	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】	雷鳴で義母は子となり臍隠す 薔薇の香にくんくん鼻を寄せてみる 黄鶉の片足立ちや餌を狙ふ	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	シャッターの前に紅薔薇閉店す 日盛りや死を口にする立ち話	山本 賜 山本 賜
【佳作】	ゴキブリに見透かされをり吾が老化 厚化粧して生身魂徘徊す ばつーもばつ二も笑顔盆踊	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎